

平成 2 2 事業年度業務実績 自己評価一覧

全体概況

平成 2 2 年度業務実績の小項目評価

分野	評価項目数	ウエイト2の項目数	評価項目数(ウエイト反映後)	評価区分					
				V	IV	III	II	I	
				大幅に上回って実施	計画を上回って実施	計画を順調に実施	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている	
第1	府民に提供するサービスその他の業務の質の向上	73	13	86	0 (0)	17 (15)	69 (58)	0 (0)	0 (0)
第2	業務運営の改善及び効率化	27	3	30	0 (0)	5 (3)	25 (24)	0 (0)	0 (0)
合計		100	16	116	0 (0)	22 (18)	94 (82)	0 (0)	0 (0)

* III以外の項目

評価	No.	項目	達成度の判断理由(要旨)																				
第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上																							
IV	4	外来化学療法室の運用(急性期C)(P8)	<p>○外来化学療法室の運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「外来化学療法室」について、<u>12月に12床から16床に増床するとともに、前立腺がんなどに対する新たなホルモン療法を開始。</u> その結果、1日当りの化学療法室の利用件数は24.8件/日、そのうち化学療法は、<u>目標値を0.9件/日上回る15.9件/日実施。</u> <p>外来化学療法室の化学療法件数(件/日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度実績</th> <th>平成22年度目標値</th> <th>平成22年度実績</th> <th>目標差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>前年度差</td> </tr> <tr> <td>外来化学療法室の化学療法件数</td> <td>14.9</td> <td>15.0</td> <td>15.9</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度実績	平成22年度目標値	平成22年度実績	目標差					前年度差	外来化学療法室の化学療法件数	14.9	15.0	15.9	0.9					1.0
	平成21年度実績	平成22年度目標値	平成22年度実績	目標差																			
				前年度差																			
外来化学療法室の化学療法件数	14.9	15.0	15.9	0.9																			
				1.0																			
IV	4②	地域周産期母子医療センターの認定取得(急性期C)(P8)	<p>○最重症合併症妊産婦受入れ医療機関の指定及び地域周産期母子医療センターの認定</p> <ul style="list-style-type: none"> 産科合併症以外の合併症を有する母体の救命を念頭に、重篤な状態にある妊産婦を速やかに受入れる適切な高次医療機関として、大阪府から<u>7月に「最重症合併症妊産婦受入れ医療機関」に指定され、8月から合併症新妊産婦等を積極的に受入れ。</u> また、救命救急の機能強化、周産期、小児医療の充実を図るため、NICUを3床から6床、GCUを5床から6床に増床するなど体制の強化を図り、<u>10月に地域周産期母子医療センターに認定。</u> 																				

			<p><地域周産期母子医療センター実績></p> <p><u>OGCS (産婦人科診療相互援助システム) による受入れ人数</u></p> <p style="text-align: center;"><u>115人 (前年度52人)</u></p> <p><u>NICU (新生児集中治療室) 受入患者数</u></p> <p style="text-align: center;"><u>106人 (前年度48人)</u></p> <p><u>GCU (回復治療室) 受入患者数</u></p> <p style="text-align: center;"><u>72人 (前年度55人)</u></p>																																							
IV	4③	精神科救急・合併症入院料の施設基準取得(急性期C) (P9)	<p>○精神科の合併患者の受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師等の増員により体制を整備し、5月に4月の実績を基に、救命救急センター等の「精神科救急・合併症入院料」の施設基準の認定を取得。 <p><精神科救急・合併症入院料算定実患者数></p> <p style="text-align: center;"><u>実績 155人 (平成22年5月から開始)</u></p>																																							
IV	8	難治性がん患者に対する手術実施体制の拡充 (成人病C) 【対12】 (P11)	<p>○難治性がん患者に対する手術実施体制の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術室の空き状況が把握できるよう、オンライン化により情報の共有化を図るとともに、契約麻酔医の活用や、手術枠の再編、運用方法の改善。 ・ この結果、<u>難治性がん手術件数は809件 (対前年度40件増)</u>。 ・ 放射線治療件数については、より効果的で副作用が少ない治療として、患部へピンポイントに照射を行う<u>強度変調放射線治療 (IMRT) に重点化して実施</u>。 ・ 治療計画の検証など通常の放射線治療より<u>約3倍の時間を要するIMRTは、741件増の3,241件実施</u>。 ・ また、外来化学療法の利用件数については、前年度の実績からは微減となったが、目標を上回り、高い水準で稼働。 <p>難治性がん手術件数等 (成人病センター)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>22年度</th> <th>目標値差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標値</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>難治性がん手術件数 (件)</td> <td style="text-align: center;">769</td> <td style="text-align: center;">800</td> <td style="text-align: center;">809</td> <td style="text-align: center;">9 40</td> </tr> <tr> <td>放射線治療件数 (件)</td> <td style="text-align: center;">29,224</td> <td style="text-align: center;">27,000</td> <td style="text-align: center;">27,768</td> <td style="text-align: center;">768 ▲1,456</td> </tr> <tr> <td>I M R T (件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">794</td> </tr> <tr> <td>(強度変調放射線治療)</td> <td style="text-align: center;">2,447</td> <td style="text-align: center;">2,500</td> <td style="text-align: center;">3,241</td> <td style="text-align: center;">741</td> </tr> <tr> <td>S B R T (件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td>(体幹部定位放射線治療)</td> <td style="text-align: center;">229</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	21年度	22年度	22年度	目標値差	実績	目標値	実績	前年度差	難治性がん手術件数 (件)	769	800	809	9 40	放射線治療件数 (件)	29,224	27,000	27,768	768 ▲1,456	I M R T (件)				794	(強度変調放射線治療)	2,447	2,500	3,241	741	S B R T (件)				30	(体幹部定位放射線治療)	229	200	230	1
区 分	21年度	22年度	22年度		目標値差																																					
	実績	目標値	実績	前年度差																																						
難治性がん手術件数 (件)	769	800	809	9 40																																						
放射線治療件数 (件)	29,224	27,000	27,768	768 ▲1,456																																						
I M R T (件)				794																																						
(強度変調放射線治療)	2,447	2,500	3,241	741																																						
S B R T (件)				30																																						
(体幹部定位放射線治療)	229	200	230	1																																						

			<table border="1"> <tr> <td>外来化学療法室 の化学療法件数 (件/日)</td> <td>54.3</td> <td>53.0</td> <td>53.4</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▲0.9</td> </tr> </table>	外来化学療法室 の化学療法件数 (件/日)	54.3	53.0	53.4	0.4					▲0.9					
外来化学療法室 の化学療法件数 (件/日)	54.3	53.0	53.4	0.4														
				▲0.9														
			<p>備考</p> <p>難治性がん手術件数は、肺がん、肝がん、膵がん、胆のうがん、食道がん、同種造血血管細胞移植術、卵巣がん及び骨軟部腫瘍に係る手術件数。</p>															
IV	10	遺伝子治療等の治療法の開発等(成人病C) (P12)	<p>○「がん組織標本・がん組織培養バンク」の基盤を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究所で独自に開発したがん組織培養 (CTOS ; Cancer tissue-originated shepoid) を中心に組織バンクの基礎を構築。<u>本技術は、患者のがん細胞を元の性質のまま培養するもので、抗がん剤の効果を明らかにするなど個別化医療への応用が期待できるもの。</u> ・ 大腸がん(22例)、肺がん(50例)、膀胱がん(70例)について、治療感受性試験、がんの特性研究、及び凍結保存技術の開発に取り組み、<u>22年度は大腸がん5例について、がん組織培養 (CTOS) を保存し、クオリティチェックを実施。</u> ・ <u>がん組織標本は、肺腫瘍216例、婦人科腫瘍(明細胞癌を中心にその他の子宮、卵巣腫瘍を含む)220例を作成。</u> ・ <u>がん組織培養に関する論文が、平成23年3月に米国科学アカデミー紀要(PNAS)に掲載。また、企業、大学との共同研究を開始。</u> 															
IV	11	手術実施体制の拡充(母子C) (P13) 関連項目 42 (P49)	<p>○手術実施体制の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>手術実施体制の充実を図るため、ICUの運用を6月から開始し、6床から8床へ増床。また、平成21年度から進めていた分娩室から手術室への転用については、平成23年2月から運用を開始。</u> ・ <u>この結果、手術件数については、前年度から202件増、目標を32件上回る3,732件を確保。</u> <p>手術件数(母子保健総合医療センター 単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度 実績</th> <th>22年度 目標値</th> <th>22年度 実績</th> <th>目標差 前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>3,530</td> <td>3,700</td> <td>3,732</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>202</td> </tr> </tbody> </table>		21年度 実績	22年度 目標値	22年度 実績	目標差 前年度差	手術件数	3,530	3,700	3,732	32					202
	21年度 実績	22年度 目標値	22年度 実績	目標差 前年度差														
手術件数	3,530	3,700	3,732	32														
				202														
IV	12	先天性疾患、小児難病などに対する専門的な診	<p>○双胎間輸血症候群レーザー治療等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>双胎間輸血症候群のレーザー治療(一卵性双胎に特有な合併症である双胎間輸血症候群(一児に多血症、他児に貧血を生じるもの)に対してレーザーを用いて胎盤の血管吻合を遮断する治療法)については、10月に専門の医</u> 															

		療機能の充 実や胎児治 療（母子C） （P13）	師を聖隷浜松病院から招聘し、 <u>8例を実施</u> 。なお、本治療は全国で <u>5病院のみで対応可能</u> 。 ○開心術（3歳未満） ・ <u>3歳未満の開心術</u> （人工心肺装置を使用して行う手術）の <u>実施件数は84例であり、目標値に対して21例、前年度実績に比べて5例増加</u> 。また、3歳以上を含めた開心術全体の件数は前年度に比べて2例増の127例。 双胎間輸血症候群レーザー治療件数等（母子保健総合医療センター 単位：例） <table border="1" data-bbox="571 521 1369 1032"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>22年度</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標値</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>双胎間輸血症候群 レーザー治療</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>5 8</td> </tr> <tr> <td>無心体双胎血行遮 断術</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>▲1 0</td> </tr> <tr> <td>開心術件数（3歳未 満）</td> <td>79</td> <td>63</td> <td>84</td> <td>21 5</td> </tr> <tr> <td>R I S T法による 移植</td> <td>36</td> <td>30</td> <td>36</td> <td>6 0</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	21年度	22年度	22年度	目標差	実績	目標値	実績	前年度差	双胎間輸血症候群 レーザー治療	0	3	8	5 8	無心体双胎血行遮 断術	0	1	0	▲1 0	開心術件数（3歳未 満）	79	63	84	21 5	R I S T法による 移植	36	30	36	6 0
区 分	21年度	22年度	22年度		目標差																											
	実績	目標値	実績	前年度差																												
双胎間輸血症候群 レーザー治療	0	3	8	5 8																												
無心体双胎血行遮 断術	0	1	0	▲1 0																												
開心術件数（3歳未 満）	79	63	84	21 5																												
R I S T法による 移植	36	30	36	6 0																												
IV	13	心のケアの 充実、在宅医 療の推進（母 子C） 【UI12】 （P14）	○療養支援の拡充実績 ・ 長期入院中の中学生以上の患者の不安やストレスを緩和するため、漫画、やDVDとそれを上映する大画面テレビとオーディオ装置、パソコン2台などを備えた青少年ルーム（わくわくルーム）を4月に整備。 ○在宅医療支援室の取組み実績 ・ 在宅療養への移行を円滑に進めるため、訪問看護ステーション、かかりつけ医、保健所と病院関係者による事例検討会を立ち上げ、平成23年3月に第1回在宅事例検討会を開催。 ・ 地域の医療機関、学校等の教育機関との連携を図り、入院している子どもの在宅療養への移行を進め、 <u>在宅療養指導管理料算定実患者数（在宅自己注射を除く）は833人となり、目標値に対し153人、前年度実績と比べて66人増加</u> 。 ・ 長期入院患児など円滑な在宅医療への移行を図るため、家族等の不安を解消し、在宅ケアの訓練ができる <u>在宅移行支援室を整備し、平成23年1月から運用を開始</u> 。																													

在宅療養指導管理料算定実患者数（母子保健総合医療センター 単位：人）

	21年度	22年度	22年度	目標差
	実績	目標値	実績	前年度差
在宅療養指導管理料	767	680	833	153
算定実患者数				66

IV 21 クリニカルパスの適用の推進（P27）

関連項目 53（P60）

○クリニカルパスの適用及び作成状況
・ クリニカルパス適用率については、8割を超える急性期・総合医療センターでやや減少したが、他の3病院で増加。また、4病院とも新たなパス作成に取り組み、パスの種類数を拡大。

クリニカルパス適用状況

病院名	区分	平成21年度実績	平成22年度目標値	平成22年度実績	目標差
					前年度差
急性期・総合医療センター	適用率（%）	82.9	83.5	82.0	▲1.5 ▲0.9
	種類数	538	550	646	96 108
呼吸器・アレルギー医療センター	適用率（%）	33.6	35	41.5	6.5 7.9
	種類数	60	65	89	24 29
成人病センター	適用率（%）	56.5	56	59.4	3.4 2.9
	種類数	119	100	162	62 43
母子保健総合医療センター	適用率（%）	41.3	40	42.2	2.2 0.9
	種類数	96	90	110	20 14

IV 22 災害時における医療協力（急性期C、他）（P29）

○東日本大震災の医療支援
・ 東日本大震災に関連し、震災直後に急性期・総合医療センターからDMATを派遣し活動するとともに、その後機構全体で岩手県に対し医師等を派遣。派遣は延べ17隊に上り、平成23年5月中旬まで実施。
・ また、精神医療センターでは、大阪府の「こころのケアチーム」の一員として、被災地への医師等の派遣を実施した。5月以降も継続して実施。

IV 23 基幹災害医療センターとしての役割、DMAT

○基幹災害医療センターとしての急性期・総合医療センターの取り組み
・ 基幹災害医療センターとして、総括DMAT研修会や、近畿地方DMAT訓練、近畿災害医療ロジスティック検討会など、DMAT研修等へ積極的に参画し、職員の派遣を実施。

		の活動、他 (急性期C、 他) (P29)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>東日本大震災での出動において、迅速、的確に対応。</u> ○急性期・総合医療センターのNBC災害・テロ対策研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国のDMAT研修修了者、50人を対象に12月の3日間、当センターにて実施。 																			
IV	24	災害医療訓練・災害医療研修(急性期C) (P30)	○災害医療訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成22年9月7日、午後1時10分に上町断層を震源とする震度7の地震が発生したとの想定で、大阪府医療対策課・薬務課、大阪府薬剤師会、大阪府医薬品卸協同組合、大阪府看護協会、大阪府立大学、医療法人錦秀会高等看護学院の参加のもと、実施。 ・ 参加者 災害医療訓練 参加者数 約300人 (見学者)73人、(模擬患者)59人、(医療ボランティア等)5人 ・ <u>新たな取り組みとして、①災害発生時の情報伝達方法の確認(コードオレンジ：院内放送のコールサイン)、②中等・重症ゾーンにおける診療体制強化と全患者に対する災害専用デジタルポータブルレントゲン撮影、③強固な指揮命令系統の構築と確実な患者情報の把握のための、DMATメンバー(医師・看護師・事務職員)のキーポジションへ配置し、より実践に近い訓練を実施。</u> 																			
IV	42	手術件数の確保 (母子C) (P49) 関連項目 11 (P13)	○手術実施体制の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術実施体制の充実を図るため、<u>ICUの運用を6月から開始し、6床から8床へ増床。また、平成21年度から進めていた分娩室から手術室への転用については、平成23年2月から運用を開始。</u> ・ この結果、<u>手術件数については、前年度から202件増、目標を32件上回る3,732件を確保。</u> 手術件数(母子保健総合医療センター 単位：件) <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>22年度</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標値</th> <th>実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>3,530</td> <td>3,700</td> <td>3,732</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>202</td> </tr> </tbody> </table>		21年度	22年度	22年度	目標差	実績	目標値	実績	前年度差	手術件数	3,530	3,700	3,732	32					202
	21年度	22年度	22年度		目標差																	
	実績	目標値	実績	前年度差																		
手術件数	3,530	3,700	3,732	32																		
				202																		
IV	43	院内施設の改善 (P50)	○施設の整備、改修、補修など、院内環境の整備状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初予算に加え、<u>収支等経営の状況を勘案した補正予算を組み、老朽化した施設の整備、改修等を推進。</u> ・ <急性期・総合医療センター> 本館1階エントランス等改修工事を実施し、工事の実施に合わせ、外来待合椅子の更新。また、中央館外来1・2階車椅子用トイレにオストメイト設備を設置し、多目的トイレに改修。 																			

			<ul style="list-style-type: none"> ・＜呼吸器・アレルギー医療センター＞ 駐車場から管理診療棟の外来受診に至る正面エントランスに歩道を設置し、外来受付および正面玄関のリニューアルを実施。また、12階の景観の良いエリアを患者や家族の憩いの場として活用できるよう改修。 ・＜精神医療センター＞ 導入後30年以上経過したベッドを、上半身を起こせるギャッジベッドに更新。また、マットレスはコイル入りの褥瘡防止タイプに変更。 ・＜成人病センター＞ 本館1階男女トイレの全面改修、中庭通路への日よけ屋根の設置、内科・外科診察室及び待合室等の壁の塗り替え等を実施。また、床頭台（TV、冷蔵庫）、洗濯機、乾燥機を平成23年6月に新たなものに設備更新するため、公募型プロポーザル方式により導入業者を選定。 ・＜母子保健総合医療センター＞ トイレや廊下手すりの改修を実施するとともに、母性外来待合室などの床及び天井の張り替え。 																																																													
IV	53	<p>クリニカルパスの作成及び適用 (P60)</p> <p>関連項目 21 (P27)</p>	<p>○クリニカルパスの作成及び適用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>クリニカルパス適用率</u>については、8割を超える急性期・総合医療センターでやや減少したが、他の3病院で増加。また、4病院とも新たなパス作成に取り組み、<u>パスの種類数を拡大</u>。 <p>クリニカルパス適用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">平成21年度実績</th> <th rowspan="2">平成22年度目標値</th> <th rowspan="2">平成22年度実績</th> <th colspan="2">目標差</th> </tr> <tr> <th>前年度差</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">急性期・総合医療センター</td> <td>適用率 (%)</td> <td>82.9</td> <td>83.5</td> <td>82.0</td> <td>▲1.5</td> <td>▲0.9</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>538</td> <td>550</td> <td>646</td> <td>96</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">呼吸器・アレルギー医療センター</td> <td>適用率 (%)</td> <td>33.6</td> <td>35</td> <td>41.5</td> <td>6.5</td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>89</td> <td>24</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成人病センター</td> <td>適用率 (%)</td> <td>56.5</td> <td>56</td> <td>59.4</td> <td>3.4</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>119</td> <td>100</td> <td>162</td> <td>62</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母子保健総合医療センター</td> <td>適用率 (%)</td> <td>41.3</td> <td>40</td> <td>42.2</td> <td>2.2</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>96</td> <td>90</td> <td>110</td> <td>20</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	区分	平成21年度実績	平成22年度目標値	平成22年度実績	目標差		前年度差		急性期・総合医療センター	適用率 (%)	82.9	83.5	82.0	▲1.5	▲0.9	種類数	538	550	646	96	108	呼吸器・アレルギー医療センター	適用率 (%)	33.6	35	41.5	6.5	7.9	種類数	60	65	89	24	29	成人病センター	適用率 (%)	56.5	56	59.4	3.4	2.9	種類数	119	100	162	62	43	母子保健総合医療センター	適用率 (%)	41.3	40	42.2	2.2	0.9	種類数	96	90	110	20	14
病院名	区分	平成21年度実績	平成22年度目標値						平成22年度実績	目標差																																																						
				前年度差																																																												
急性期・総合医療センター	適用率 (%)	82.9	83.5	82.0	▲1.5	▲0.9																																																										
	種類数	538	550	646	96	108																																																										
呼吸器・アレルギー医療センター	適用率 (%)	33.6	35	41.5	6.5	7.9																																																										
	種類数	60	65	89	24	29																																																										
成人病センター	適用率 (%)	56.5	56	59.4	3.4	2.9																																																										
	種類数	119	100	162	62	43																																																										
母子保健総合医療センター	適用率 (%)	41.3	40	42.2	2.2	0.9																																																										
	種類数	96	90	110	20	14																																																										

第2 業務運営の改善及び効率化に関する項目			
IV	76	プロパー職員の採用 【対外2】 (P79)	<p>○プロパー職員の採用の拡大、民間人材の活用・登用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロパーの事務職員については、平成22年度に向けた採用がリーダー級3人を含む13人であったのに対し、<u>平成23年度には24人増の37人を採用。</u> ・ また、平成23年度の事務職員の採用にあたっては、<u>37人の採用中社会人経験者32人、課長補佐級を3人採用</u>するなど、民間人材の活用・登用を積極的に実施。
IV	81	職員の職務能力の向上の取組み (P82)	<p>○看護師のキャリアパスへの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>新たに専門看護師3人、認定看護師5人が資格を取得。</u> ・ 平成23年度の実施に向けた<u>長期自主研修支援制度</u>の改正。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援金の上限を基本給・地域手当の50%相当額（現行30%相当額）、月額15万円限度（現行月額10万円限度）にアップ。 ・ 対象職員の範囲について、在職期間3年以上（現行4年以上）に、再度の利用までの期間を3年間（現行10年間）。 <p>○医療技術職への合同研修の実施、研修体系の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤師については、4月に新規採用職員を対象に5病院による新入局薬剤師合同研修を実施。また、5病院の薬局長が役員となり「がん薬物治療多職種横断研究会」を設置し、平成23年1月から3月まで合計8回のがん専門薬剤師研修公開講義を開催。 ・ 放射線技師については、採用後3年目の若手職員を対象に、所属病院以外の病院で研修や、5病院共同の学術交流会を実施。
IV	89	収入の確保 【対外2】 (P89)	<p>○医業収益等の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各病院において、22年度は診療報酬の改定を受け、新たな診療報酬基準の取得など診療単価向上に取り組むとともに、地域連携の強化などにより新入院患者を確保。 ・ この結果、<u>医業収益は、全ての病院で前年度実績を、4病院で計画を上回り、前年度と比較して28.0億円、計画値と比較して17.7億円上回る533.5億円を確保。</u>

医業収益（百万円）

病院名	平成21年度 実績	平成22年度 計画値 (予算額)	平成22年度 実績	計画差
				前年度差
急性期・総合 医療センター	17,807	17,902	19,039	1,137
				1,233
呼吸器・アレルギー 医療センター	6,855	7,059	6,959	▲100
				103
精神医療センター	2,898	2,813	2,927	114
				29
成人病センター	12,900	13,182	13,353	170
				453
母子保健総合 医療センター	10,093	10,623	11,077	454
				984
合計	50,553	51,580	53,354	1,774
				2,801